

9 キャリア教育と教育相談、特別支援教育

「どんな職業につきたいか」、「進学して何を学びたいか」という進路決定の判断は、3年間の学校生活における「これが自分だ」という認識の探求プロセスの結果として自然に導かれるものです。

自分と向き合い、自分らしさを知り、自己実現の道へステップアップしていく…このプロセスを大切にしたいと考えています。

目標が明確で意欲に満ちているなら、生徒たちは偏差値だけで進学先を決めません。私たちは生徒と一緒に考えていきます。

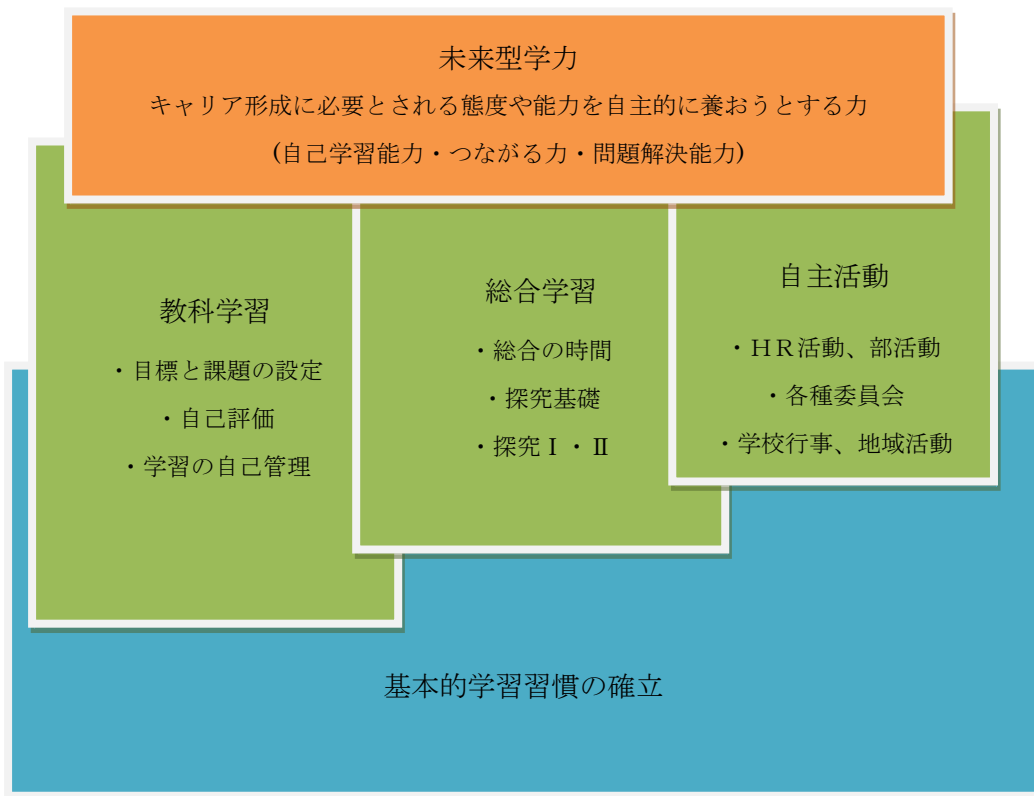
「あなたが将来したいことは何ですか？」

「どんなふうに自分を生かしていきたいですか？」

1. 未来型学力はキャリア形成の土台となる力

キャリア教育の目標は、卒業後のキャリア形成において必要とされる能力や態度を培う力を育てることです。それは将来にわたって学び続ける未来型学力そのものです。だから、未来型学力への挑戦過程はそのままキャリア教育だともいえます。

【弥富高校のキャリア教育のイメージ】



2. スクール・カウンセリングに基づくキャリア教育…総合学習

学習活動	学年主題	スクール・カウンセリングによる総合学習	
		進路分野	ヒューマンセクソロジー分野
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学び方を学ぶ ・ 自分の興味関心を知る ・ 基礎基本の定着 	1年生 自己理解	自分の良いところ探し <ul style="list-style-type: none"> ・ SGEによるワーク ・ キャリアガイダンスⅠ 	基本的な知識とスキル <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係スキルGWⅠ ・ 性教育Ⅰ ・ 安全・健康教育Ⅰ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に出て触発を受ける ・ ゼミ形式の協同学習 ・ フィールドワーク 	2年生 自己啓発	自分と適職 <ul style="list-style-type: none"> ・ SGEによるワーク ・ キャリアガイダンスⅡ 	自らの性と向き合う <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係スキルGWⅡ ・ 性教育Ⅱ ・ 安全・健康教育Ⅱ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のテーマを追求 ・ 個別論文 	3年生 自己実現	近未来キャリアデザイン <ul style="list-style-type: none"> ・ SGEによるワーク ・ キャリアガイダンスⅢ 	性的な自立 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間関係スキルGWⅢ ・ 性教育Ⅲ ・ 安全・健康教育Ⅲ

※SGE…「構成的グループ・エンカウンター」カウンセリングの一方法

スクール・カウンセリングは、生徒の心理的な発達を援助する活動であり、「心の教育」「生きる力を育てる」などをめざす学校教育の根幹に位置するものです。本校では総合学習を、“カウンセリングマインドを持った教員が、すべての生徒を対象として、人間形成にかかわる諸問題に対して援助していく総合的な活動”として位置付けています。

(1) 総合学習の教育目標

心の教育を柱に、開発的カウンセリングの手法を活用して、自己一致、自己決定力を育む教育を目指す。

(2) 自立した社会人となるための基礎固めの授業

週1時間の総合学習では、開発的カウンセリングの考え方に立ち、社会生活に必要なライフスキルを育て、困難な問題に対処する力やストレス耐性を高める生徒の心理的な発達を促進する活動を行います。活動の中身としては、「性教育」「コミュニケーション・スキル教育」「健康・安全・人権の教育」「心の教育による進路学習」「進路ガイダンス」などがあります。これらは、生涯にわたり影響が及ぶ発達課題達成の支援であり、すべての生徒が参加する学習活動です。

3. 教育相談、特別支援教育

スクールカウンセリングは、「個性の尊重と潜在能力の実現を目指す教育活動であり、幼稚園から高校までの教育課程の中で、総合的・開発的プログラムをつくり、子ども一人ひとりの知的能力、個人的、社会的能力、職業選択能力を開発し、責任ある創造的市民を育てようとする営み」です。(1990年アメリカスクールカウンセラー協会)

(1) 教育相談室の活動の骨格

A. スクールカウンセリング

<目的別の3本柱>

- ① 開発的カウンセリング活動
- ② 予防的カウンセリング活動
- ③ 問題解決的(治療的)カウンセリング活動

<活動形態の4本柱>

- ① ガイダンス
- ② カウンセリング
- ③ コンサルテーション
- ④ コーディネーション

B. プロモーション活動

C. 統合活動

(2) 活動の概要

A. スクールカウンセリング

① 開発的カウンセリング活動

生徒の心理的な発達を促進し、社会生活に必要なライフスキルを育て、困難な問題に対処する力やストレス耐性を高める活動です。活動としては学年総合「ヒューマンセクソロジー」による「ライフスキル教育」と「心の教育」による「キャリア教育」などがあります。これらは、生涯にわたる発達課題達成の支援であり、全ての生徒が対象となります。予防的なカウンセリング活動につながる活動でもあります。

② 予防的カウンセリング活動

スクールカウンセラー、教員カウンセラーによるカウンセリング活動を通して生徒の話を良く聴き、生徒の気持ちを理解すること。そして、生徒を取り巻く環境・状況を正しく把握し、適切なアドバイスやスキル教育、環境(学級や

家庭など) 調整などを行い、問題の発生を未然に防いでいきます。また、ラポールの形成と情緒的な支えが重要であり、スモールステップでスキルアップを行い、自己肯定感を高めていきます。尚 カウンセリング活動には保護者、教員に対するコンサルテーション、カウンセリングも含まれます。

③ 問題解決的(治療的) カウンセリング

スクールカウンセラー、教員カウンセラーによるカウンセリング活動を通して問題が顕在化している、あるいは問題が重い生徒を対象として、カウンセリングや治療プログラムによる指導などを行います。問題解決には、個人に対するアプローチだけでなく学級や家族などの本人を取り巻く環境へのアプローチを行います。したがって、カウンセリング活動には保護者、教員に対するコンサルテーション、カウンセリングも含まれます。

B. プロモーション活動

カウンセリング活動についての理解を深めるための研修の実施、相談室に担当者の常駐体制、相談室の予算立て、年間計画の作成、書籍や資料の充実、相談室にソファ、観葉植物など置くなどの環境整備を通じて一般の先生方を含めたカウンセリング活動がしやすい状況を構築する活動です。

C. 統合活動

予防的、問題解決的なカウンセリング活動、学年総合の活動の評価、特別支援の取り組みについての評価、関係会議についての評価を通して、各活動や取り組みについて再構成し、活動の充実を図る。また、センター会議や職員会議等を通じて教育相談的な視点からの学校教育の再構成を提言する活動です。

(3) 特別支援教育の取組について

特別支援教育は特定の教員が個々に行うのではなく、全教員で行うものです。校内での組織的な流れは、教職員や保護者などの周囲の大人が学習上、生活上での困難に気づき教育相談室に申請し、特別支援ガイドラインの定めるところに従い、支援方針の策定、個別支援計画の作成などを行い支援サイクルに載せていきます。特別支援の校内委員会は教育相談委員会を母体とするアセスメント会議とし、教育相談室長が特別支援コーディネーターの任を果たします。

学習場面での支援は通常の授業や学級経営においてユニバーサルデザインの視点で生徒との関わりを捉え直し、生徒にとって生活しやすい環境をつくることを念頭に努力します。

また、発達障害と診断されていない場合でも、学習や生活に困難がある場合には支援が必要になります。外国では突出した能力をもつ子どもも特別支援の対象とされています。標準の枠におさまらない個性を理解し、支援することで意識を高め必要な支援につなげていきます。